

特集2「ポストFIT時代のソーラーシェアリング」

特集2 ポストFIT時代のソーラーシェアリング



千葉県匝瑳市メガソーラーシェアリング第一発電所(千葉県匝瑳市)より

関係者の努力もあって、2017年4月には当時、国内のソーラーシェアリングでは最大規模となる出力1000路のメガソーラーも竣工した。来賓挨拶では小泉純一郎元総理大臣が壇上に



停電時にはソーラーで携帯電話に充電。対応するとともに未来も耕している。

農地で営農しながら太陽光発電も行うソーラーシェアリング(営農型発電)。これまでであれば、FIT制度を活用して得られる売電益は、営農者にとって大きな収入源になっていた。しかし買取価格の通減とFIT制度抜本改革の議論が進展する中、ソーラーシェアリングも大きな岐路に立っている。そのような背景において「FITの次の段階」を見据える事例・技術・産業をクローズアップした。

「ソーラーシェアリングの郷」が目指す卒FIT

市民エネルギーちばin千葉県匝瑳市

林の道を抜けると視界が開けた。小高い丘の前に「ソーラーシェアリングの郷」の大きな看板が見える。その向うには銀色に輝くいくつもの発電施設が見える。その下に農地が広がっている。農作業が盛んに行われていることはすぐわかる。こうした光景は国内ではここだけではないだろうか。ここは千葉県匝瑳市。ソーラーシェアリング(営農型太陽光発電)がこれだけ集積した場所はない。日本のこれからのエネルギーと食料生産のあり方を示唆する重要な地域だ。

◆地域に合計2・4メガも集結
着想は「食もエネも自給自足」

ソーラーシェアリングとは農地の上にソーラーパネルを設置し、農業生産を続けながら発電する施設のことだ。いわゆる太陽光発電と違う点は、営農を継続することだ。この施設は、これからの日本には不可欠として各地で建設が始まっている。「ソーラーシェアリングの郷」は運営方法や各種技術においても全国

千葉県匝瑳市飯塚地区には数多くの発電所が集まっている



はなかった。市民エネルギーちばがここにソーラーシェアリング1号機を設置したのは2014年。同社の代表取締役である東光弘氏が地元の農業生産者である橋茂雄氏や千葉市内の環境

◆台風15号原因の停電時にはケータイに充電サービス実施

ソーラーシェアリングの理念に賛同する人たちが次々と集まっている。50路未満の低圧発電所は20カ所ほどになり、メガソーラーも含めた全体の発電量は2・4メガほどまでに上がった。面積では10秒ほどにわらずか5年で成長した。

「地域で自家消費・災害対策」も視野

だが、ここに至るまでの道のりは決して平坦ではない。地産地消を目指している」と狙いを語る。市民発電に参加している人々の様々な思いが交錯している。

現在の課題は、「転換期を迎えている事業用太陽光のFIT制度抜本改革にどう対応するか」にある。買取価格もさらに低減することが予想されている。ここも停電した中、同社代表の東光弘氏は「我々の会社では、ソーラーシェアリングの帯電サービスの導入コストは現在、1路あたり13万5000円。役に立つことを周辺住民にPRした。ソーラーシェアリングは売電にとどまらず、そこでできた電気を農業生産に活かすことも考えている。ソーラーシェアリングの下では土を耕す

新しい技術を採用することで、これを10万円までに下げたい。一方で売電では、FIT制度を活用しなければ即売電価格に環境価値が乗せられる。安い設備の導入と、付加価値のある売電を同時進行させることで、非FITで十分やっていけるのではないかと。将来は蓄電池も安くなるだろうから、我々の地域のように太陽光発電所が多くあるエリアでは自家発電で十分となり、買電無しとなることも可能と考えている」としている。FITを卒業し、正に究極の自給自足まで到達することを視野に入れている。千葉県では台風15号による大停電の混乱が続いている。ここも停電したが、ソーラーシェアリングからの電気を利用し携帯電話の充電サービスを行つことで、災害時にも役に立つことを周辺住民にPRした。ソーラーシェアリングは売電にとどまらず、そこでできた電気を農業生産に活かすことも考えている。ソーラーシェアリングの下では土を耕す

大きな看板が来訪者を迎える



2014年に可動した1号機



新しい技術を採用することで、これを10万円までに下げたい。一方で売電では、FIT制度を活用しなければ即売電価格に環境価値が乗せられる。安い設備の導入と、付加価値のある売電を同時進行させることで、非FITで十分やっていけるのではないかと。将来は蓄電池も安くなるだろうから、我々の地域のように太陽光発電所が多くあるエリアでは自家発電で十分となり、買電無しとなることも可能と考えている」としている。FITを卒業し、正に究極の自給自足まで到達することを視野に入れている。千葉県では台風15号による大停電の混乱が続いている。ここも停電したが、ソーラーシェアリングからの電気を利用し携帯電話の充電サービスを行つことで、災害時にも役に立つことを周辺住民にPRした。ソーラーシェアリングは売電にとどまらず、そこでできた電気を農業生産に活かすことも考えている。ソーラーシェアリングの下では土を耕す